



▲市民の力作が並んだ文化事業共同展示会



▲工芸サークルの方による作品



▲ほっとはあと作品が紹介された工芸作品発表会

「グラム二〇〇七」を市国際交流会館・市文化博物館で開催し、およそ三、二〇〇人が来場しました。

南丹市は、伝統工芸を通じてものづくりの盛んなまちなりつつあります。そこで、市内で活躍される工芸作家や団体の活動と、市民や小・中学生などの工芸への関わりを紹介することで、暮らしに根付く「ものづくり」を発掘し、ものづくりからはじまる「まちづくり」を支援しようと、南丹市・府南丹広域振興局・府南丹教育局などが共同で開催しました。

会場では、南丹市内で活躍

されている方々や団体の作品を展示した「南丹工芸文化祭」、南丹市、亀岡市、京丹波町の公立幼稚園や保育所、小・中学校、高等学校、特別支援学校の幼児・児童・生徒と、京都伝統工芸大学の学生・卒業生の美術工芸作品が一同に展示された「南丹美術工芸教育展」、そして地域における文化の次世代育成と継承について考える「次世代へつなぐ南丹地域文化フォーラム」を同時開催しました。

同フォーラムでは、NPO法人京都匠塾たくみの代表高橋博樹さんによる、「伝統工芸を活かした地域づくり ～次世代継承を通じて～」と題した講演が行われました。京都匠塾は、京都伝統工芸大学の卒業生ら若手職人が、技を受け継ぎ、活躍できる場として設立し、作品の創作や伝統工芸文化の普及活動を行っておられます。園部町本町に開設された、町屋工房「息吹いぶき」を拠点にされた、伝統工芸を生かしたまちづくりに期待が寄せられています。高橋さんは、「工芸をはじめとする伝統文化を、これからの世代がしつ

かりと守っていかなければならない」と語られました。

南丹市のものづくりを発信 —南丹工芸文化祭—

南丹工芸文化祭では、「文化事業共同展示会」「工芸作品発表会」「工芸品展示会」の三つの展示を企画しました。

「文化事業共同展示会」では、能面・パッチワーク・人形・押し花・草木染・陶器・ちぎり絵・はり絵など、地域の工芸サークルで市民が趣味



▲展覧された作品に見入る来場者



▲工芸品展示会には1,500人が来場しました

や生涯学習の一環としてコツと作り上げられた作品を展示しました。

「工芸作品発表会」では、市内の授産施設で製作・販売されている「ほっとはあと作品」を紹介。より付加価値の高い製品の作成に取り組み、販売力の向上を図ることで、障がいのある方の社会的自立と経済的自立を促進することを目指した「ほっとはあと」事業について、パネル展示などで紹介されました。

「工芸品展示会」では、南丹市内で陶芸や木工、染色などの工芸を営んでいる工芸作家の作られた素晴らしい作品